

## 令和元年6月1日に思う

上皇陛下と上皇后陛下のお言葉が心に深く残ります。「<sup>ことだま</sup>言霊」、言葉に宿る豊かな力を強く意識したのは私だけではないでしょう。4月30日「退位礼正殿の儀」において、上皇（当時の天皇）陛下は「明日から始まる新しい令和の時代が、平和で実り多くあることを、皇后と共に心から願い、ここに我が国と世界の人々の<sup>あんねい</sup>安寧と幸せを祈ります」と国民への感謝と平和への願いを述べられました。3年前の退位の意向をにじませた時のお言葉もそうでしたが、いつもながら陛下のお言葉は心に染み入ります。

上皇陛下は、直接国民に思いを伝えるために、お言葉を大切にしながら自ら筆をとり、<sup>すいこう</sup>推敲に推敲を重ねながら完成させるようです。もちろんお言葉の用い方もありますが、上皇、上皇后両陛下の国民に寄りそうお姿が、お言葉に一層重みを増しているように思えます。

昨今の政治家の軽々しい発言や言葉（失言）を耳にするたびに悲しさとむなしさを覚えてなりません。私たちは、お二人の思いをしっかりと受けとめ、「言葉の力」を信じ、「言葉の大切さ」を再認識するべきではないでしょうか。

同時に、世界にはびこるさまざまな格差や絶えない争い等の問題から目を背けず、「平和の尊さ」を国民一人ひとりが今一度思い返してはどうかという思いがつのります。